（様式２）

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立しげのぶ特別支援学校
学校番号（　50　）

評価実施日	令和　６　年　　３　月　１　日（　金　）		
	氏　　名	所　　属　　等	備　　考
委員	大野　裕介	障害者支援施設「三恵ホーム」施設長（学校評議員・学校関係者評価委員）	
	山本　太平	松山城山ライオンズクラブ会員（学校評議員・学校関係者評価委員）	
	若本　裕之	愛媛県立子ども療育センター所長（学校評議員・学校関係者評価委員）	
	本田　隆彦	東温市教育委員会教育委員（学校評議員・学校関係者評価委員）	
	岡田　翔揮	相談支援事業所ソレイユ管理者兼相談支援専門員（学校評議員・学校関係者評価委員）	
	宮岡　宏太	愛媛県立しげのぶ特別支援学校ＰＴＡ会長（学校関係者評価委員）	
	西村希和子	愛媛県立子ども療育センター看護部長（学校関係者評価委員）	
	豊田　純子	愛媛県立子ども療育センター生活指導担当係長（学校関係者評価委員）	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
1　明るく楽しい学校にします。	
・新型コロナウイルス感染症が５類感染症になった後も感染等の不安がある中で、教職員、児童生徒、保護者がコミュニケーションの機会や校内活動に対する充実度の不足感を感じていると思われる。社会の不安定な状況が原因だと思われるため、徐々に活動を活性化していけばよい。また、このような状況だからできた良さもある。ノウハウを生かして、ハイブリッド化した学校行事等を実施していくことで、より良い学校となるのではないか。	・状況に応じて学習や学校行事等の実施方法（対面、遠隔、集団等）や実施内容を検討しながら柔軟に対応し、学校内の教育活動の充実及び活性化を図るとともに、それらについて、教職員、児童生徒、保護者と共有できるよう工夫する。 ・気持ちのよい挨拶の励行を基本にして校内のコミュニケーション活動の活性化を図る。
・子どもにとって明るく楽しい学校とは、関わる人との関係が良好であり、自己実現が図れる学校だと思う。教職員が子ども一人一人の思いを大切にし、個に応じた支援によって学びを保障し、自立の可能性を広げることに真摯に取り組んでいるしげのぶ特別支援学校は明るく楽しい学校だと思う。	・研修や情報交換を通して得た知識や技能を実際の場面で生かし、幼児児童生徒のあらゆる場面での自己表現や学習の充実につながるよう、事例や教材を共有し、友達や教師と関わりたい、伝えたいという気持ちが持てるような状況づくりを大切にしながら、コミュニケーションツールの獲得につながる指導、支援の充実を図る。
・地域の子どもや大人と交流の機会を持つことは、子どもたちの将来にとって重要である。共に生きる社会を構築するという面から、地域にとっても有意義な取組だと思われるため、今後さらに充実を図るとよい。	・状況に応じた交流の方法を検討し、障がい理解などの啓発に努めるとともに、児童生徒の交流が深められるような活動を工夫する。
2　一人一人が主体的に学べる学校にします。	
・子どもの実態を細かく把握して綿密な計画を立て、子どもの主体性を尊重して指導にあたり、結果の分析を次年度へ引き継ぐシステムを確立して教育課程の充実に努め、その中で保護者の願いを受け止めて指導に生かされている。	・個々の実態に応じた目標設定をするとともに、卒業後の生活を見据えた学習内容や課題を積極的に取り扱う。また、幼児児童生徒が達成感を感じられる授業実践を積み上げ、知りたい、伝えたい、やってみたいという気持ちを育む。
・特別支援学校の子どもにとって重要な課題の一つは「自立」だと思うが、学校生活全体を指導の場と捉えて個の状況に応じた取組をしていることは有効である。	・キャリア教育で育成したい能力について発達段階別指導内容表で段階を確認することや卒業後に自分らしく生きるための必要な力は何かを具体的に考えることで系統性のある指導につなげる。
・学年、学部間の学習内容や目標達成に向けての引継ぎを確実にできるよう取組を継続してほしい。	・定期的に実態把握ツールや年間指導計画等を見直しながら正しく実態を捉え、学習を計画、実施する。年度末年度始を中心に、学年や学部間の引継ぎを丁寧に行う。
3　安心・安全に学べる学校にします。	
・医療的ケア安全委員会、学校医、指導医の方々が様々な立場から連携して、個別の手順書や指示書等の作成を見直すなどの医療的ケアの検討・改善を行うとともに、子ども療育センターとの連携により共通理解を図り、安心安全な環境づくりの徹底に努めている。見直し、改善は安心した教育活動にするためには欠かせない取組である。	・これまでの取組を継続するとともに、本人、家庭、学校、医療機関、相互の関係づくりに努める。また、書類の見直しを定期的に行いながら必要に応じて改善し、正確で適切な医療的ケアを実施する。
・感染防止、危機管理についての気配り、努力が伺える。避難訓練等、地域やＰＴＡと連携しながら対応について整理し、センター的役割を意識して地域へ還元したりモデルとなって発信したりするとよい。	・避難訓練の実施方法について校内の対応だけではなく、地域や保護者を含む実際的な災害時の対応について検討して方法や役割、動きを確認する。
4　保護者・地域から信頼される学校にします。	
・地域の学校以上に児童生徒だけでなく、保護者の安心感を高めることが求められているように感じた。感染症の予防をしながら地域や保護者への啓発活動を行うことの難しさはあるが、方法を検討、工夫しながら進めてほしい。	・社会及び校内の状況に配慮し、実施方法を工夫しながら、学校の教育活動を見ていただく機会を設ける。校内の相談機能の充実を図り、児童生徒、保護者の困り感に対応できるよう努める。
・ICTの活用など生活の自立や社会参加などを見通した取組を進め、指導に生かす様子からは、学習活動が今後さらに充実し、子どもたちの活躍の場が拡大することが期待できる。先進的な取組を含め、積極的に実践に取り組むことは、保護者の願いとも一致し、信頼を得ることにつながると思われる。	・幼児児童生徒の安全を第一に据えながら、校外での体験学習を計画したり、人間関係が広がるような機会を持てるよう工夫したりする。引き続き、オンラインや出張講座なども活用して学習活動の充実を図るなど状況に応じた手段を選択しながら学習の機会を確保し、幅広い体験活動が実施できるよう努める。
5　業務・改善	
・まだまだ改善の余地はあるのだろうと思うが、ICTの活用等により徐々に効率化が図られていると推察できる。教員の仕事は多岐に渡るためどの業務を省くかという議論は難しいと思われるが、子どもたちに向き合う時間が十分に確保できるよう、組織的な取組、指導法、教材教具の共有化等により、業務の効率化、スリム化を実現してほしい。	・幼児児童生徒の教育的ニーズに応じたICT機器の効果的な活用指導力の向上を図ることで、教材の共有や授業研究など業務の効率化につなげる。 ・会議や各種研修、業務における検討及び見直しや、教職員の適性を考慮した配置等を行い、業務のスリム化を進める。
・ICTに関しては、中予のどの学校よりも積極的に取り入れている。	・児童生徒のICT機器の活用だけでなく、教職員のICT活用が充実し、業務改善にもつながるよう研修や情報共有の方法を工夫する。